**吉田山から見た京大時計台**（三高・京大の輝かしい歴史を刻み続ける）

いち早く人文の開けた吉田にも、さらに大きな「人文開花」の時が訪れた。明治二十二年八月、第三高等中学校が大阪から「吉田山ノ西麓ニ接シ南面吉田神社ニ対スル」敷地に移ってきたからだ。次いで京大教養部のある現在地に移ったのだが、明治二十八年刊行の大日本管轄分地図のうち「京都市図」と称するものに高等学校と記されているのは、ちょうど前年二十七年九月をもって、第三高等中学校が「第三高等学校」と改称されたからである。ここに吉田の地が学問の府として、後日、大発展をつくる緒についたのだが、「学問の自由」を求める遠大な抱負に生きる三高生の「紅（くれない）もゆる――」に歌われた吉田山との出会いは校舎移転の日から始まっていたのである。そして、世にいわゆる「京都学派」と称される輝かしい人文山脈をつくる礎となった。戦後、文教改革で第三高等学校が八十二年の輝かしい歴史をとじた。いま、吉田山の頂上には青春の思い出を無言で語る〝礎〟の碑が、それらの人びとの手によって建てられている。